

賛否など態度決定に至った理由・討論

令和7年6月定例会	
議案番号 議案名	議案第10号 副市長の選任について
議員名・会派名等	市民力 湯浅文
賛否態度	反対
賛否など態度決定 に至った理由や 討論	<p>※市民力は、本会議および委員会での討論という本来の発言を最大限に活かすことこそが議員の責務と考えます。非公式の場に、議会で発言してもいない意見を掲載するというやり方は、議員自らが議会における議論を軽視する行為であるとの考えから、以下、本会議・委員会など公の場で討論した内容を掲載いたします。</p> <p>市民力の湯浅文です。議案第 10 号副市長の選任について反対の立場から討論致します。</p> <p>本議案は今月 1 日に投開票が行われた松戸市長選挙において前・本郷谷市長から後継指名を受けて立候補し、落選した小玉典彦氏を副市長として登用しようとするものです。そもそも選挙とは立場が異なる候補者が互いに政策を訴え、有権者に信を問うものであります。そして、当選者は選挙で掲げた政策、つまり、公約実現のために任期中、全力で邁進することが求められています。改めて申し上げるまでもなく、選挙における有権者の判断は非常に重みのあるものです。</p> <p>今回の選挙戦で大きな争点の一つとなったのが、松戸市役所本庁舎の建て替え問題でした。前・本郷谷市長時代に出された「段階的整備案」の元で、執行部がなし崩し的に進めようとする移転計画に対し、参加した候補者達は小玉氏ただ一人を除いて全員が明確に反対でした。これは各候補者の HP や SNS、選挙公報、各種メディア報道、更には 5 月 29 日に青年会議所主催で開かれたネット討論会の○✕質問でも明白です。松戸市長は選挙選では「市役所移転は白紙」と言い、「現地建て替えも含めて再検討」を掲げていたと記憶しています。一方で、自民公明はじめ29人もの市議会議員が応援していた小玉氏は現状の移転案に○を掲げていました。前・本郷谷市長の片腕として働き自らが仕事として支えてきた政策ですから、当然と言えば当然ですが松戸市長とは考えが正反対だと認識しています。</p> <p>今回の選挙では他にも市立病院事業の経営の立て直しや、各種大型事業などに対する現状路線に大きく警鐘を鳴らし、現体制とは異</p>

なる政策の数々を明言して立候補された松戸市長が当選されたことで、旧体制からの決別を望んだ有権者の判断が圧倒的多数であることが明確に世の中に示されました。

そのような中、松戸市長と最も政策対立が顕著な小玉氏を、一般的な行政手腕や経験への評価等を理由に、あえて今回あらためて副市長に職に就けることは、たとえ法的には問題がなくとも道義的に多くの問題が生じると言わざるを得ません。また、当選前まで市政について経験皆無であった松戸市長の主要政策が、行政経験豊富な小玉氏の主張に飲まれてしまい、スピード感ある政策実現へのブレーキになったり、ややもするとバックギアとまってしまうのではないと多くの市民が心配しています。

その大きな理由の1つが小玉氏の急な身の転じ方への市民の不信感です。小玉氏は出馬時には、本郷谷路線を継承すると明言されており、「国や県での行政経験、企画立案能力、実力は誰にも負けない」とまで自負されていました。自分がつい最近まで主張していた政策を捨て去って市長の元で正反対の政策を推すことができるのでしょうか。人間は機械ではありません。感情の生き物です。つい数週間前まで本気で政策実現を目指し政治家を志していた人間が、そう簡単にやすやすと己の志や信念を曲げて切り替えることができるとは思えません。もし、簡単に曲げられることができるのなら、それはそれで信念のある政治家として期待していた有権者を裏切ることになってしまうのではないのでしょうか。いずれにせよ、更なる政治不信・行政不信につながると考えます。

現状でも本市は低投票率が続きますが、この現状に更なる拍車をかけかねない行為はげんに慎むべきではないでしょうか。もし今回の登用が安易な判断や政治的取引ではなく、真剣に松戸市を想うが故の対立を乗り越えた判断だ、と言われるおつもりなのでしたらそれこそ市長も副市長候補も一緒になって選挙時と同じぐらいの熱量で市民の前にでて、あの時の同じぐらいの時間と熟議を持って、今回の決断を市民にこの上なく丁寧に市民に説明するところからまず、始めるべきではないでしょうか。応援した政治家も同様だと思います。選挙の喧騒が去り××××私は、選挙が終わった後こそ実際に公約が守られるかどうか、試される重要な期間の始まりだと考えています。また、同時に選挙で候補者だった人達の本性が行動に出始めるフェーズだとも考えています。

今回の松戸市長の選任に対し道義的に正しいのか、本当に任せて大丈夫なのか、という疑念はぬぐえません。有権者は当選者が決まった後のことは全てその人に行動を白紙委任した、とお考えでしょうか。私はそうは思いません。民主主義とは不断の努力によって維持、充実するものです。市民が疑問に思えば、当事者に聞いて疑義を正していただく機会を当事者が積極的に設けるべきと考えますが、選挙

時よりも今は御兩人とも物理的にも街頭に立つ機会が減り、松戸市長においては公職の立場に就かれ、市民は当事者に尋ねることすら以前と比較して容易ではない状況です。いずれにしても、市民からすれば今回の副市長選任の提案はあまりにも唐突かつ想定外です。政治の側にいる私たちは常に積極的に自省し多くの市民が疑問に思っていることや説明責任を果たさないうちは、その行動においては最大限慎重になるべきと考えます。

以上のように、市長の政治姿勢の道義的な疑義をはじめ争点となった数々の政策の一貫性への極めて強い不安、推薦された当人への不信感、そして何より選挙で明白となった市民の声を無視し不安を助長することに対し本議案は市民の理解を得られるとは到底思えず賛成できません。以上、議案に反対討論といたします。市民のため、みなさまの原案反対へのご賛同をよろしくお願いいたします。